

浜松復興記念館

2015 年 05 月 16 日 11:46

浜松には戦中戦後の資料が展示してある**浜松復興記念館**という資料館が存在する。

今回この資料館に訪問した。



浜松復興記念館

浜松市は日本の中でも壮絶な米英の攻撃を受けた場所の一つであり、その時の爆撃、攻撃は浜松空襲と呼ばれる。

浜松空襲（はまつくうしゅう）とは、第二次世界大戦末期にアメリカ軍によって行われた、浜松およびその周辺地域に対する戦略爆撃・無差別攻撃の通称。

浜松とその近郊は、その都市規模に比して多数回の空襲を受けた。その理由として、

軍施設が数多くあった。（陸軍飛行場、陸軍飛行第7連隊、浜松陸軍飛行学校、三方原教導飛行団など）

軍需工場が数多くあった。（日本楽器、中島飛行機、鈴木織機など）

東海道の要に当たり、また、国鉄浜松工機部があった。

東京・名古屋への空襲の際の侵入ルートに当たっていた。空襲後、基地に帰る部隊は残った爆弾を浜松に捨てて帰るように命じられていた。

第21爆撃機集団による対日都市攻撃被害報告によると、当時の浜松の人口は166,346人。計560機により3,076トンの爆弾を投下したとある。これは横浜市よりも多い機数で多くの爆弾を投下したことになる。

wikipedia「浜松空襲」より

この資料館であるが、旧浜松医学校の跡地に建てられている。



浜松医学校看板

そのためか、近くには浜松市医師会館もある。



浜松市医師会館

浜松復興記念館は浜松空襲とその後の復興の記録を通して浜松の発展と、その将来について考える場となることを目的に建設された。



浜松復興記念館看板



戦後 50 年復興記念碑

この記念碑（記念館）が建てられて 20 年経つ。

つまり、戦後 70 年も経ったという事になる。

今一度、この戦争と復興から多くの事を学び直す必要があるだろう。



復興記念館外観

浜松市空襲被害状況



B-29 構造



艦砲の破片 爆弾構造



艦砲の破片



当時の品々①



当時の品々②

艦砲弾の破片なのに自分の腕よりも大きいという事に驚き、当時の空襲（艦砲も含む）に当時の浜松市民が曝されていたと思うと、筆舌に尽くしがたい恐怖や悲しみがあつたことが推察される。

最近シブヤン海で沈んだ武蔵が見つかったからだろうか、途中に何のゆかりもない戦艦武蔵の模型（しかも大小二つ）があつた理由は未だに不明だが、



武蔵模型[大]（全長 120cm 程度あつた）



武蔵模型[大] 後方より



武蔵模型[小]



武蔵模型[小]上方より

その他軍用手票（代替の通貨）や戦争当時の生活に使われたものなど貴重な資料が掲載されており、非常に興味深かった。







軍用手票

そして戦後、復興と色々な文化やそれを支える電化製品などの展示がされていた。



復興当時の日本人を支えた色々な製品

戦争、復興の浜松を窺い知るうえで非常に参考になる資料館だった。駐車場が無いのが欠点であるが、一度は是非訪れてみてほしい。

・浜松復興記念館

開館時間

午前 9 時から午後 5 時まで

ただし、室利用は午後 9 時 30 分まで

休館日

月曜日（国民の祝日に当たるときは、その翌日）

国民の祝日の翌日

年末年始(12 月 29 日～1 月 3 日)